

17火

卒業式

第24期生の黒田広輝さんの卒業式が執り行われます。今期は、残念ながら入学生は与えられませんでした。入学生が与えられるようお祈りください。



19木, 20金, 25火, 26木

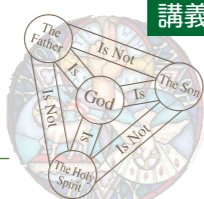
伝道実践

近隣の町でのトラクト等の配布や訪問伝道、関係づくりなどを行います。その他、伝道ライブなども行います。

24火, 27金

基本教理 永井 学院長

キリスト教の基本教理を学びます。知っているようで知らなかったことや、改めて気付かされることなど、さらに理解を深めることができます。



講義

30月

仙台アグロー10周年記念集会

仙台アグロー\*が発足して10年を記念する集会。  
\*「アグロー」ローマ 12:11「霊に燃え (be aglow)」から命名。  
アメリカで4人の女性により始められた女性による超教派の集会。



# 拡大宣教学院 30周年記念聖会

2018 第一聖会 第二聖会 第三聖会  
4/17火 14:00~, 17火 19:00~, 18水 10:00~

主講師 キム・ジョンイル師【韓国 スクール・オブ・オーガニック・プランターズ校長】

申込要項 お申込みの際は、下記メールか FAX に参加者全員の氏名と所属教会名をご連絡ください。  
✉ [gospeltown@infoseek.jp](mailto:gospeltown@infoseek.jp) ☎ 022-345-2992

ぜひ、ご参加ください。お祈りください。 17日 11:00 から卒業式が行われます。



宿泊のご案内 ゴスペルタウンでの宿泊は、人数に限りがあるため、できるだけ最寄りの宿泊施設に、ご宿泊ください。ご理解、ご協力のほど、よろしくお願い致します。

最寄りの宿泊施設のご案内

- ホテルルートイン仙台大和インター ☎ 022-344-5711
- 大和パークホテル ☎ 022-345-6680
- ビジネスホテル新ばし ☎ 022-345-7887

ウェブで予約できます。



Kakudai Mission Institute No.356

# Magnify

拡大宣教学院 機関紙 マグニファイ

建設中のゴスペルタウン



## 西海路より

日本バプテスト連盟 鹿島キリスト教会 牧師 小林 孝宏 師

私は、「だれを遣わそう。だれが、われわれのために行くだろう」と言っておられる主の声を聞いたので、言った。「ここに、私がおります。私を遣わしてください。」  
(イザヤ書 6章8節)

当学院を卒業して約2年が過ぎました。在学中は厚顔不遜の学生だったような?特に、「直箸」は苦手で食べ物も信仰的理由をつけて好き嫌いがあったような?3年間の学びで神学的知識は「?」のまま「卒業」したので不安だらけの日々でした。いざ、現場に出れば知識以上に、教会外での人との出会いや語り合いが多いことに気づくことがあります。ここで「神学を語るな。御言葉を語れ。」の教えが生きてきます。(多少の神学知識は必要ですが、実践で学ぶことの大切さを知ります。)

神学校時代を「入力」とするならば、現場では「出力」であることです。私自身、入力そのものがないことが現場で知らされました。唯一、毎週土曜日朝まで提出義務のレポートが「出力」だったような?レポートは後々生かされて来ます。(在学生の諸君、提出するように……) 約400文字のレポートは、現場では何かにつけて書くことが多いのです。この文字数があれば、大抵の要件を述べる事が出来ます。では、文字数に達したので巻頭を終わりたいのですが、課題文字数に達していないのでしばらくの御辛抱とお付き合いをお願いいたします。

## 3.11 東日本大震災 追悼記念礼拝

## 特別講義レポート ピーター・チャオ師

野球に例えるならば、相手がどのようなボールを投げ込むのか、心理的に「読む」ことが大事ですが、当然のことながら読み通りには投げては来ません。(ブラッシュボール!) この訓練は自分自身が鍛えられて「糧」となります。

昨年は、ルターが「95か条の提題」をヴィッテンベルグ城の教会に貼り付けてから500年目でした。(卒業文にて稚拙な一考察を書きました。) ルターが目指した改革とは、一言で申すとすれば、「我々が聖書の言葉で命を養える」ことを願ったのではないのでしょうか。約1000年の暗黒時代を経て、「神の言葉」である聖書を、一握りの聖職者から、民衆に取り戻すことだったと考えます。自国(ドイツ語)の言葉で聖書を読めるように、聖書の御

御言葉が一般の人々に伝わることを目指したので。伝える以上に伝わるが必要になります。(実感です。) 教会(私たち)は、聖霊なる神によって、聖書の御言葉を多くの人々と分かち合うようにとされています。これには艱難辛苦が伴います。(私は、まだまだです。) 神学校が学ぶ場であることは申すまでもありませんが、それ以上に寮生活、人間関係、あらゆる生活の場面で必要とされました。(私はいずれも不完全で強制終了!)

いずれにしても、5年前は自分自身の頑な心で入学し、後にペンテコステ系の神学校と知ったお粗末ぶりでした。在学中には諸先輩方々(特定なし)より鍛えられて卒業時には少しは「角」が取れていたのです。(自己申告しておきます。) 自分が変えられ変わることは自分では気づきません。造り変えられる方は「誰」であるのかを気づくことが、一番の学びではないでしょうか。その時は在学中なのか、現場に出てからなのかは千差万別です。(私自身、気が付いたのはごく最近です……) 述べる言葉も「立て板に水」よりも朴訥と話すように心がけています。(早口なので) 人生の先輩から教えられることが多かいです!

神学校を卒業して現場に出る不安が大きいと思いますし、正直な気持ちでしょう。神様は「誰を遣わそう」と申されていますが、「貴方」しかおりません。おそらく全身が震えて小さな声で「わたしを遣わしてください。」と答えるかもしれません。それで良いのです。現場で学びつつ教えられて知るのは、エジソンは「失敗は成功への第一歩である」と言いました。失敗から学ぶのです。モーセも「私は口が重く、舌が重いのです。」(出エジプト 4:10) 彼は、神様から用いられることを理由をつけて何度も断りましたが、神様は彼を用いられました。献身者は完璧であるよりも、私のような不完全な者こそ用いられるのです。

今春、卒業される方、在学中の方、入学される方、神学校生活を日々「学び」ながら、「楽しみながら?」歩まれることを祈念いたします。

「西海路」は菜の花の香りと、夕方の道を自動車で走っている時、大村湾が金色に輝いています。そいぎんたー!

BOOK あらかると

3.11  
東日本大震災  
追悼記念礼拝  
第27期生  
福森 雄一



3月11日、仙台青葉荘教会で行われた、東日本大震災追悼記念礼拝に初めて参加させていただきました。今年で震災から7年。日本に生まれ育った者として、忘れてはならない日であります。

今回は、まず2月21日に決起集会が、同教会で行われ、参加させていただきました。7年という月日が経つと、人々の関心が薄れていったり、忘れられていくこともあるかもしれませんが、被災した方々のなかには、現在も、先の見えない不安や不安定な生活の中にいる方も多くいらっしゃいます。だからこそ、祈りが必要である事を覚え、決起集会の後も、日々祈りに覚えつつ3月11日を迎えました。

追悼記念礼拝では、「救いの証し」を石巻トリニティバプテスト教会の高橋さんが語ってくださいました。高橋さんは津波で家を流され、ご家族を失われたそうです。それだけではなく、2013年に脳出血で自らも倒れ、左半身麻痺の障害をもつ身体になってしまいました。高橋さんは、元々プロの舞台女優として活躍していたのですが、歌や踊り、演技ができなくなり、自暴自棄になられ、その頃は「神さまなんかいない!神さまのことが大嫌いで憎くて仕方ない!」と思われていたそうです。しかし、リハビリがてら誘われたゴスペルで教会に導かれ、少しずつ歌と共に聖書に触れ、神さまを知りたいという思いが与えられ、洗礼に導かれたそうです。その後も、なんと4度の交通事故に遭われたり、緑内障を患われたりと、救われた後も試練が続く中、堂々と力強く語られる姿に励まされました。また、高橋さん以外にも、この震災を通し、様々な方法で神さまの愛に触れ、救いに導かれた方がいる事を、当日配られたパンフレットの中で知ることが出来ました。

メッセージは、基督兄弟団仙台教会の中田元先生が語られました。ローマ人への手紙 5章3節~5節から、

「希望は失望に終わることがない」というテーマで、耐え難いほどの苦難を味わった被災地の方々の心に寄り添いつつ、将来の希望ではなく、永遠の希望に目を向けて、聖書の約束を信じて、今を生きることの大切さを語られました。

そして震災の起こった14時46分に、参加者全員で黙祷を捧げました。この時間は、私にとっては、とても不思議な感覚が、自分の内側の中で起こっているのを覚えました。日本中でたくさんの方が、この時間に祈りを捧げていたのではないかと思います。これから益々、イエス・キリストの福音による希望が日本に広がって行く事を強く願う時となりました。

その後シンガーソングライターの岩渕まこと、由美子御夫妻による特別賛美があり、会場はとても温かい雰囲気になりました。仙台出身で、自らも復興支援のボランティア活動をするお二人の歌とギターの演奏、本当に素晴らしかったです。その中で、被災された石巻の方が書いた詩に、岩渕まことさんが作曲した「ボランティアのミスターポール」という曲を演奏されていたのですが、岩渕さんは音楽を通して、地元の方と触れ合い、その中で神さまの愛を体験されている事を覚えました。それは奇しくも、当日の東北中央教会の礼拝メッセージで、永井信義先生が語られていた、「神の愛は、他人との深い関係の中で知ることができる」という内容と合致していました。

私自身、昨年まで福岡で生活し、献身と共に宮城に移り住み約1年が経とうとしています。今回この追悼記念礼拝に参加させていただけた事も、神さまの計画なのだと思えます。ここに置かれている事の意味を改めて確認させていただき、私なりの方法で福音を伝え、人とのつながりを大切にして、希望を運ぶ者と成長させていただきたいと思えます。

現場に則した意思決定は  
リーダーシップの本質である。



ピーター・チャオ師

シンガポールを拠点としてアジア各国での伝道、リーダー育成、一般企業と教会・宣教団体に対するコンサルティングを行うイーグルス・コミュニケーションの総裁を務める。また、クアラルンプールのピーター・ドラッカー／伊藤雅俊ビジネススクールの博士課程プログラムに在籍し、数多くのセミナーで主講師を務めている。

3月20日、シンガポールよりピーター・チャオ師をお招きし、特別講義を開いて頂きました。今回の講義ではリーダーシップの意志決定についての講義でした。

現場に則した意思決定はリーダーシップの本質である。

リーダーシップを執るなかで、「意思決定」がチームの未来を左右すると、ピーター師はおっしゃっていました。意思決定はゴールではなく過程の一つであり、自分自身の経験に基づいています。何が大切で何が大切でないかを判断できるようになるには、とても時間がかかります。1日24時間の内、やりたい事、やらなければいけない事すべてを盛り込むことはできません。質の良い24時間は、次の質の良い24時間に繋がります。その意思決定において重要な「危機的状況での即断」「将来の計画」「人事に関わる決断」といった、3つのケースの対処法や必要なスキルを教えてくださいました。

まず、1つ目の「危機的状況での即断」では、経済的なことに対するもの、また、教会内でのぶつかり合いに関する事柄について触れました。このケースは決断する時間と選択肢が少ない中で決断しなければいけません。投資家たちの世界は、秒単位で「億」の損得があると聞き、自分とはかけ離れた生活をしていることに驚きました。また、これで終わるのではなく、困難な状況を乗り越えた時、何が起こったか、どんなプロセスで乗

り返るとが最も重要だと学びました。

そして2つ目の「将来の計画」では、戦略の重要性について学びました。戦略は組織の将来を決定づけるもので、どのように到達するかは、自分自身のあり方が関わって来る事、戦略はどのように歩むかではなく、将来組織がどうなっているかを決定するものであることなどを学びました。

最後の3つ目の「人事に関わる決断」ですが、これがこの3つのケースのうち、最も重要な決断であるとおっしゃっていました。「組織は技能によって人を雇い、関係の悪化によって解雇する。」組織の中で仕事や奉仕をするうえで人間関係は切っても切り離せないものです。良い人材を確保しなければ将来の計画を実行できる人物がいなくなります。また、たとえ良い計画、良い人材がいたとしても、悪い人が1人いれば、すべて台無しになる場合もあるし、全てが悪い状況でも、良いリーダーが一人いれば事態を打開する可能性もあります。すべては神様が備えて下さるものです。

「決断すること」これはリーダーにとってとても大事なことです。しかしどんな決断をするか、決断した結果どうなるかは、自分に頼らず、神様に全てにおいて任せて行きたいと思えます。



BOOK あらかると

今回紹介するのは、神義論、特に神はよい方（善であり、義である）なのになぜこの世界には悪が存在するのかについての考察を論じる、新約聖書学者で英国国教会主教でもあるN・T・ライトの『悪と神の正義』（教文館）です。

訳者が言うように「神の救い、神の義は、ただ与えられるものではなく、私たちが互いに対する赦しや助け合いによって参与することでこの世に実現していくのであり、それを可能にしてくれるのが神なのだ」という考えが示されている書です。

永井信義

